

## 佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
生活支援技術Ⅳ Independent Living Skill Ⅳ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の学生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
こころとからだのしくみⅣ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィシアワー		電話番号・メールアドレス
森 千佐子/和田 晴美/久保 由佳	福祉棟2F	月・水・金曜日 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
「生活支援技術Ⅳ」では、身じたくや入浴・身体の清潔保持の意義について学習し、身じたくおよび身体の清潔に関するアセスメント方法や自立に向けた支援のための基本技術を習得する。さらに、利用者の状態・状況に応じた身じたくや清潔保持の援助方法、実施時の留意点について考える授業とする。				
授業の目標				
①身じたくおよび身体の清潔保持の意義について説明できるようにする。 ②身じたくや入浴に関する利用者のアセスメントの視点について、説明できるようにする。 ③利用者の状態に応じた衣服着脱の方法と工夫および留意点について、説明できるようにする。 ④入浴の際の環境整備の要点および入浴に関連した用具を列挙できるようにする。 ⑤衣服着脱や入浴、清拭などの援助の方法および実施時の留意点について、説明できるようにする。				
授業の方法				
介護実習室や入浴実習室での演習が主である。教員がデモンストレーションを行った後、グループに分かれて演習する。演習では、利用者役と介護者役の両方を体験し、援助の際の留意点を考えながら基本技術を習得できるようにする。				
学習の成果(学習成果)				
①身じたくの意義を踏まえ、利用者の自立やプライバシーに配慮しながら、基本手順に沿った衣服着脱の援助を実施することができる。 ②身体の清潔保持の意義や入浴が心身に及ぼす影響を踏まえ、利用者の状態や生活状況に応じた身体の清潔を保つ方法を選択することができる。 ③利用者の自立を考え、プライバシーへの配慮をしながら、基本手順に沿った入浴および清潔の援助を実施することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法・受講時の留意点など) 身じたくの意義と目的、身じたくに関する利用者のアセスメント 【講義】			(森)
第2回目	利用者の状態に応じた衣服着脱の工夫と介助① 【講義】			(森)
第3回目	利用者の状態に応じた衣服着脱の工夫と介助② 座りでの着脱介助 【演習】			(森・久保)
第4回目	利用者の状態に応じた衣服着脱の工夫と介助③ ベッド上臥位での着脱介助 【演習】			(森・久保)
第5回目	利用者の状態に応じた衣服着脱の工夫と介助④ 福祉用具の活用 【演習】			(森・久保)
第6回目	身体の清潔保持の意義と目的、入浴・清潔保持に関する利用者のアセスメント 【講義】			(森)

第7回目	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助① 【講義】			(森)
第8回目	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助② 入浴の介助(リフト浴、特浴)、全身清拭(小グループで演習する。演習内容と日時は授業で指示する)			【演習】 (森・和田・久保)
第9回目	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助③ 入浴の介助(リフト浴、特浴)、全身清拭(前回の振り返りレポートを提出)			【演習】 (森・和田・久保)
第10回目	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助④ 部分浴(手浴、足浴) (前回の振り返りレポートを提出)			【演習】 (森・久保)
第11回目	利用者の状態に応じた整容動作の工夫と介助 口腔ケア 【演習】			(森・久保)
第12回目	技術の確認 (実技試験)			(森・和田・久保)
第13回目	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助⑤ ベッド上での洗髪・整髪、ケリーパッドの作り方			【演習】 (森・和田・久保)
第14回目	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助⑥ ひげやつめの手入れ等			【講義】 (試験) (森)
第15回目	整容および清潔保持における他職種の役割と協働			【講義】 (森)
成績評価の方法と基準				
	評価の領域	割合	評価の基準	
	授業参加態度	20%	以下の視点で評価する。教材を準備して授業に臨み、必要なことはノートにとり、わからないことは質問すること。また、技術演習の際には身だしなみを整えて積極的に参加し、技術向上に向けて練習すること。	
	レポート	20%	入浴演習および清拭演習の振り返りレポートを課す。S評価のレポートは、提出期限が守られ、利用者役および介護者役の体験から、感想や学びが具体的に記述されており、援助時の留意点が列挙されていること。	
	調査報告書			
	小テスト			
	試験	60%	①技術の確認として、衣服着脱介助の実技テストを行う。評価項目は授業で説明する。 ②筆記試験では、穴埋め、記述、文章の正誤を判断する問題等により、知識の確認をする。	
	発表内容(態度含む)			
	その他			
教科書と参考図書				
教科書：新・介護福祉士養成講座 第7巻「生活支援技術Ⅱ」・第8巻「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版 生活支援技術の手引き				
履修上の留意点・ルール				
「こころとからだのしくみⅣ」と特に関連の深い科目であるため、復習して授業に臨むこと。講義・演習とも積極的に取り組み、演習時は身だしなみを整えること。また、自己練習をし、技術の向上に努めること。机上に携帯電話、飲み物など教材以外のものを置くことは禁止する。やむを得ず欠席する場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。				